

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.21
平成24年11月16日

作品展が明日、明後日とあります！

すでにご案内させていただいているように、11月17日（土）、18日（日）は作品展が実施されます。1000人規模で実施される最後の作品展です。どの学年の作品も子ども達の力作揃いです。多くの保護者の皆様、祖父母の皆様のご参観をお願いします。

友達との別れが寂しい・・・！

日の出小学校の建設が着々と進み、平成25年4月1日開校に向けての諸準備が予定通りなされています。日の出小学校へ就学することになる児童とその保護者、そして、地域の方々は、おそらく開校を待ち望んでいらっしゃると思います。

そんな中で、友達との別れが寂しく、「こんな学校できなければいいのに・・・！」と、寂しげにつぶやいた児童がいます。その子は、毎朝、お父さんとともに自宅から建設中の日の出小の側を歩いてランニング（ウォーキング？）している児童です。「**弥富中学校へ進学したら、また、一緒に勉強できるじゃないか・・・**」と、その子のお父さんは、我が子を諭すように話されたそうです。

このお話を伺ったとき、「その児童は、素晴らしい友人関係をつくっているんだな。また、その児童が所属する学級は、とても仲の良い学級集団を築いているんだな」ということを感じ取ることができました。

私自身も、毎朝、「おはようございます！」大きな声であいさつしてくれる児童に元気をもらおうと同時に、あと4か月半後の約600人近くの児童との別れを思うと、えも言われぬ寂しさを覚えます。

残された桜小での期間、学校・学年・学級の絆をさらに深め、素晴らしい思い出でと友情を創りあげてくれることを念じています。

全校朝礼の話より（10/29）

みなさん、おはようございます。

朝と夕方の気温が下がり、だんだんと秋の季節が深まってきました。みなさんは、かぜをひいたり、お腹の調子を悪くしたりしていませんか。

今日は、みなさんに秋をあらわす言葉をひとつ紹介したいと思います。それは、「つるべ落とし」です。「つるべ」というのは、昔の井戸にありました。水道がなかったころは、地面に穴を掘って穴の中にあまっている水を使っていました。それを井戸と言います。井戸の中にたまった水をくみ上げるには、バケツのような入れ物がいりますね。縄につり下げられたバケツのような入れ物のことを「つるべ」と言います。「つるべ落とし」とは、井戸から水をくむときに「つるべ」が井戸にストンと落ちていく様子を表した言葉です。

さて、では、秋の「何」が「つるべ落とし」なのかわかりますか。

「つるべ」は、あっという間に井戸の底に落ちていきます。つるべが落ちていくように、秋になると、あっという間に日が沈みます。その様子を、昔の人は、「秋の日はつるべ落とし」と表しました。

実際、秋になって、太陽が沈む時間が早くなりましたね。遊びに夢中で、気がついたら、暗くなっていたということはありませんか。

今日の日の入りの時刻は、午後4時53分です。9月の終わり頃は、6時頃ですから、この1か月近くで暗くなるのが1時間も早くなっています。日の入りが早くなって暗くなった道は、いろいろと危険がいっぱいです。暗くなるまで外や友だちの家で遊んでいませんか。学校や公園で遊んでいて、大人の人に「暗くなるから帰りましょう」と、言われたことはありませんか。自転車のライトはきちんとつきますか。

危ないことがないように、自分で気を付けてきちんと行動できるようにしたいと思います。

教頭 原 学